



昨年3月11日に起こりました東日本大震災から早1年が経過します。私は事の重大さに鑑み、地区内ロータリアンの皆様方に国難に立ち向かう為の方策に全身を傾けて訴えて参りました。そして地区内ロータリアンの皆様方の熱い支援のもと、数々のプロジェクトが立ち上がりました。支援の輪は未だ出発したところでありまして、これから先まだまだ高島年度・福家年度へと引き継がれなくてはなりません。今後とも熱いご支援をお願い申し上げます。

さて、3月は識字率向上月間です。日本では読み書き算術は当たり前の世界ですが、世界中に眼を広げてみますとまだまだ読み書きの出来ない人々の多さに驚かされます。従って国際ロータリーは早く（1986年以来）から強調事項として強く訴えております。

ところで、ロータリー探究では次のように述べています。ユネスコの推計によると世界で15歳以上の8億人の人々が基本的な読み書き能力がなく、とくに女性・女子は世界の非識字人口の64%以上を占めており、1990年以降ほぼ変化していません。読み書き・計算能力が社会に与える恩恵は、識字社会では内戦も少なく経済発展もより速やかであるのが一般的となっています。また、読み書き能力のある人々の方が地域社会の健康問題について認識があるため、一般的により健康であると言えます。そして女性にとって読み書きと簡単な計算を行う能力は、教育的、社会的、経済的機会への扉を開く可能性は大きいと言えます。辞書の寄贈、学校建設、個人指導者としての奉仕のいずれの形をとるにしろ、ロータリアンおよびロータリークラブは識字率を高める活動を積極的に行っています。

RI 理事会は、世界中で識字能力の大切さを強調するとともに独自の識字率向上プロジェクトを開発し、ロータリアンが世界で行う非識字根絶の取り組みに

ついて広報する絶好の機会をロータリークラブと地区に与えるために3月を識字率向上月間と決めました。

最後に2006年6月12日、国際ロータリー年次大会基調演説よりシスター・エセルの言葉を紹介いたします。“識字率向上は、貧困の悪循環を断ち切るカギ”

世界ローターアクト週間にあたって

1992年3月、RI 理事会はローターアクトの創立25周年を記念して3月13日を含む1週間を「世界ローターアクト週間」に指定しました。1968年3月13日は世界で初めてノースシャーロット・ローターアクトクラブが出来た日ですが、この1週間はローターアクトについての認識を深め、ローターアクトの実績を示し、ローターアクトとロータリアンとの絆を深める良い機会です。今さら言うまでもありませんが、ローターアクトとは大学または地域社会を基盤として世界中に広くネットワークを有する奉仕クラブのことで、ロータリークラブによって提唱されています。18歳より30歳までの若い人々がその中で自分のパワーやプロの腕前を発揮する機会が与えられ、今日約160ヶ国で約8,100クラブ、18万6,000人以上の会員を擁するまでに拡大しました。当地区には19クラブ260名余りの会員が在籍して地区献血活動や海外研修、ローターアクト研修会等の活動を行っていますが、ここ数年、クラブ数、会員数共に減少傾向にありますので、RIの規定審議会の改正に伴い、四大奉仕から五大奉仕へと新世代奉仕が追加されましたことにも鑑み、これからのロータリー活動には新世代奉仕を抜きには語ることは出来ません。もう一度RACを提唱されているクラブでは未来へ向けての発展性、またRACを提唱されていないクラブではその実現性を検討してみてもは如何でしょうか。